カラーコード 色よい反応

一見普通のイラストに見えるが、実はデータが読み取れるコード。こんな「カラーコード」を街で目にする機会が増えそうだ。韓国生まれのコードで、広く普及している「QRコード」に比べ多彩な色使いやデザインが可能。テレビ画面など映像に使いやすい利点もある。採用する企業にとっては利用料金がかかるのが難点だが、導入の動きが相次いでいる。

見た目 鮮やかイラスト

日本旅行ではパンフレットにカラーコード（点線円内）を採用（東京都港区の赤坂支店）

日本旅行の全国の支店に二月から、これまでとは一風変わったパンフレットがお目見えした。掲載されている三センチメートル四方の様々なイラストが「カラーコード」。カメラ付き携帯電話で撮影すると、プレゼントキャンペーンの応募ができたり、旅行先の観光情報を入手できたりする。

同社は今後一枚刷りを除くすべての旅行パンフレットにカラーコードを掲載する。今春の掲載分だけでも三千万部以上になる見込み。限られた紙面には掲載しきれない情報が引き出せる点を武器に、利用者の利便性を高める。将来的には携帯サイト経由での旅行予約の増加を狙う。

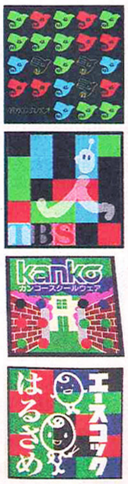
これまでもパンフレットの一部にQRコードを使っていたが、今回カラーコードを全面採用した理由は「利用者の視覚に訴えるデザイン性が高く、今後様々なサービスの展開が可能になる」（日本旅行営業企画本部・企画チーム主任の吉田一成氏）ためだ。街中に張るポスターや街頭ビジョンなどにも採用していくほか、日本旅行のシンボルマークとなるカラーコードの作成も検討しているという。

視認性高く、採用企業増

やはりデザインの豊富さを買って、カラーコードをこの夏から採用するのがスクウェア・エニックス。業務用カードゲーム機「ドラゴンクエストモンスターバトルロード」に使うカードにカラーコードが載る。機械の中にカードを入れると、ゲーム機に搭載したウェブカメラが情報を読み取り、カードのキャラクターが画面に登場する仕組みだ。

セガの「ムシキング」がバーコードを使うなど業務用カードゲーム機には読み取りコードが必須。QRコード、ステルス印刷など数あるなかで、スクエニがカラーコードを選んだ決め手は「カードはコレクションの要素もあるため、デザインが命。コストも抑えられる」（市村龍太郎プロデューサー）からだ。

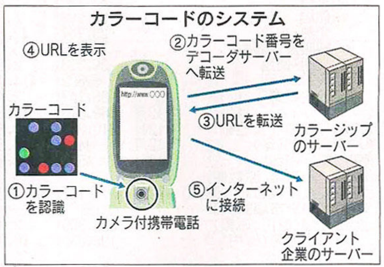
エースコックも三月からコンビニエンスストアなどの棚に並ぶ「スープはるさめ」九種類、「はるさめヌードル」五種類の裏面にカラーコードを採用する。


TBS
kanko
カンコースクールウェア
はるさめ
エースコック
カラーコードの例

「カンコー学生服」の尾崎商事（岡山市）も大日本印刷と組み、カラーコードを使ったポスティングチラシを製作した。「一目で当社の制服とわかりやすいデザインが決め手」（同社）という。

行政でもカラーコードを使う動きが出てきた。神奈川県横須賀市は市のホームページにカラーコードを掲載し、携帯サイトへ誘導する。絵柄は市のシンボルマーク。今後は市庁舎などの壁にカラーコードを張り付けることも検討している。

カラーコードのシステム



コード総計171億通り
企業の利用には課金

〔韓国生まれ〕 カラーコードは韓国のITベンチャー企業、カラージップメディアが二〇〇〇年に開発した二次元コード。縦五マス、横五マスのスペースに、赤、黒、緑、青の四色を使ってコードを表現し、携帯電話のカメラなどで撮影することで認識する。一辺が五ミリメートル以上であれば大きさは問わない。

色の構成パターンによって総計で百七十一億通りのコード番号の違いを識別できる。カラージップ社はこのデータをサーバーで管理しており、個別のアドレスに対応させている。コードを撮影したデータをカラージップ社のサーバーにネット経由で送信すると、コード番号に対応したアドレスが携帯電話に表示される。利用者はそのアドレスにアクセスして情報を読み取る。

韓国では、専用の読み取りソフトが組み込まれた携帯電話が発売されており、シンガポールでもサービスが始まっている。日本では、二〇〇四年に日本法人カラージップジャパン（東京・千代田）が設立され展開が始まったばかり。まだ読み取りソフトを組み込んだ携帯電話はなく、利用には無料ソフトのダウンロードが必要。

〔QRコードとの違い〕 利用する企業にとって、QRコードとの最も大きな違いは有料であることだ。企業がパンフレットなどに利用する場合、初期登録料二十万円、サーバー利用料を月額一万円程度、カラージップジャパンに支払う。テレビ放送に使う場合は、初期登録料が五百万円、月額利用料は五十万円。

〔日本は搭載に消極的〕 日本の携帯電話会社がソフト搭載に消極的なのは「一社独占の営利事業だけに加担しづらい」（携帯電話大手）面もある。日本法人のカラージップジャパンの朝田康幹取締役COOは「QRコードのように、インフラを無料化するつもりはない」という。

テレビや道路でもOK

「QR」より認知簡単

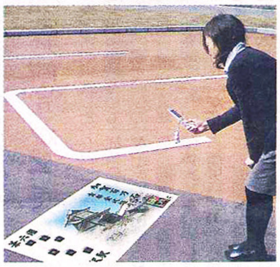
カラーコードを載せられる媒体はQRコードのように紙の印刷物に限らない。テレビ画面や道路、どこでも可能だ。

テレビでDVDの売れ筋ランキングを放映中、画面の右下に表示されたカラーコードをカメラ付き携帯電話で撮影すると、携帯通販サイトに接続。TBSが二〇〇五年十一月に日本で初めてテレビ番組にカラーコードを登場させた。昨年六月にはテレビ朝日がサッカー中継でカラーコードを使った実験放送を実施した。

いずれも画面にQRコードも載せたが、アクセス数はカラーコードの方が多かった。「QRコードの場合、テレビ画面に携帯電話をかざしたものの読み取れなかった視聴者が相当数いたとみられる」（TBS）

カラーコードは多少、にじんでも読み取れる。走査線の数が少ないブラウン管テレビだとQRコードと読み取り能力の差は歴然。モバイルゲート（東京・品川）が実施した実験結果によると、明るい部屋に置かれた十四インチブラウン管で、カラーコードは九割近い携帯電話で読み取れたが、QRコードは一割にとどまったという。

番組は終了しました
PRIDE無差別級GP決勝記念
プレゼントキャンペーン
持ちのケータイで下記のPRIDE特設ページにアクセス
・出場選手サイン入りPRIDEグローブ
・出場選手サイン入りフォトフレーム
・大会特別デザインTシャツ



サンコー企画のカラーコードの使用シーン（写真はイメージ、写真下）と、CS放送での番組終了後、カラーコードを使った実証実験の模様

カラーコードは道路の路面にも写し込める。道路標識などの施工業者、サンコー企画（石川県津幡町）は今春、カラーコードを使った小売店向けの路面広告の販売を始める。「QRコードだとかがんで接写しなければならないが、カラーコードは立ったまま、斜めからでも認証できるなど使い勝手がいい」（同社）

様々な分野に用途

バス車体広告に

一般貸切
H－1001
SOGO
平成エンタープライズのカラーコードを使った観光バス

東京―大阪間などで片道三千円台という格安ツアーバスを運行する平成エンタープライズ（埼玉県三芳町）は四月をめどに、カラーコードバスを毎日運行する。車体にカラーコードを入れるほか、着席した人の目線に入るように前の座席の背もたれの後ろにもカラーコードを入れる。

座席のカラーコードは複数そろえ、バスの予約、到着地の観光施設、宿泊の各情報サイトに接続する。ツアーバスは片道購入が一般的で、行きの時間に帰りの分も購入してもらうきっかけを作る。観光施設やホテルからは紹介料獲得をもくろむ。車体に入れるカラーコードは、企業広告に活用する計画だ。

カラーコードを採用する理由は、認知のしやすさ。精密なデータが必要なQRコードと違い、カラーコードはデータの六割程度を認識できれば情報が正確に読み取れる。夜行バスの暗くて揺れる車内でも使いやすい。

接写が必要なQRコードとは違って、少し離れた場所から撮影しても認識できる点も利点。同社ではカラーコードバスの運行に先立ち、昨年から性能実験を複数回実施。携帯電話の機種によって差はあるが、車体から五メートル程度離れた場所で撮影しても認証できたという。

（永井伸雄）